

～おわりに～

市民活動推進審議会では、地縁型の市民活動団体とテーマ型の市民活動団体、さらには企業、大学等が連携協働して課題解決に取り組む地域社会の実現に向けて、どのような手法や支援が必要なのか、事例調査も行いながら審議して参りました。

そこで、活動主体が連携協働して取り組むステージに進むためには、まずは、個々の活動主体の活動が活発化している必要があること、また、取組の進展する際に共通する環境・要因があることなどが見えてきました。

とりわけ、さまざまな情報や支援策が提供されているなか、良い助言者に巡り合うことができ、適切な支援策に出会える環境にあることが、取組の進展に大きく影響しています。

地域や活動主体の将来展望をしっかりと見据え、現状を把握し戦略を持った支援がより着実に行われることが、市民活動の全体の底上げにつながるとても重要な要因といえるでしょう。

市民活動の充実に向けては、より多くの人に興味を持ってもらい、活動者として加わっていただき、活動のすそ野を広げていくということが根幹にあります。

個人の参加においても、団体の参画においても、「市民活動を知っている」「市民活動に関心がある」から「参加してみる」に移行するには、大きなエネルギーが必要です。

活動の魅力伝える機会も、その後の継続的な活動の可能性も、「参加してみる」ところからはじまります。

「おもしろそう」「便利」などの受け取りやすい情報発信や、活動者の都合にあわせた参加しやすい活動形態の用意など、活動者も支援者ともに、「参加してみる」ことを促すため、これまで以上に工夫を凝らして取り組んでいくことが求められています。

市民活動は、活動にかかわる多くの方々の中で共通理解や合意を経ながら、長い時間をかけて醸成していくものです。

サポートを行ったからといって、急に活動に参加する人が増えたり、つながりが生まれたりするわけではありません。

あせらずゆっくり取り組むという気持ちを持って活動することが大切ですし、同じことが支援する側にも求められます。

提言をとりまとめるにあたり、市民活動を支援する方が使いやすいものになることをめざして、チェックシートを作成しています。市民活動を支援する方にこの提言を活用いただき、市民活動がさらに活発化して大阪市域が活力に溢れ、より豊かな地域コミュニティが醸成されるとともに、持続可能な社会の実現につながっていくことを願います。